

代表質問

定例会初日に示された市長の施政方針や令和3年度予算案に対して行う「代表質問」は、3月3日、4日の2日間にわたり、各党派からの代表5人により行われました。(質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載)

各議員の記事にあるQRコードを読み込むと、代表質問の動画を視聴できます。(通信費は利用者の負担となります。)



表丹沢をはじめとする 我がまち秦野の魅力を全国に 創和会 谷 和雄

一 市長のまちづくりビジョンについて

問 2050年のゼロカーボンシティ実現を目指し(仮称)地球温暖化対策実行計画を策定することだが、取り組みはどのようなものか

答 地域の53%を森林が占める本市では、森林整備が特徴的となる。併せて、省エネに努め、地域資源を生かしたバイオマスの活用などについても検討し、秦野らしさを生かした取り組みが地域経済の好循環にも寄与するようオール秦野で実現に向けた環境整備を進める。要望 環境に配慮した電気自動車への移行が世界的に加速しており、本市でも急速充電器の設置に早期に取り組んでほしい。

二 はだのクリーンセンター1施設



誰もが夢と希望を持ち生き生きと活躍できる社会の実現を 自民党・新政クラブ 高橋 文雄

一 「収」の一字にかける思いについて

問 市長は任期の最終年に当たり、その意気込みを「収」という漢字で表現したが、この一字にかける思いについて令和3年度予算にどのように反映したのか

答 新たな都市像「水とみどりに育まれ誰もが輝く暮らしよい都市」の実現に向けて、過去最大となる524億3千万円の予算とした3年間の取り組みの成果を大きな果実として収穫するとともに、新型コロナウイルス感染症の収束に向けた強い思いを込めて「収」の一字を掲げた。

二 今後の財政見直しについて

問 コロナ禍において、社会情勢が大きく変化する中で、予算編成に向けて

問 可燃ごみは順調に減少しており、1施設体制への移行前倒しを望むが、今後の取り組みはどうか

答 市民が積極的にごみの減量、分別に取り組んだ結果、計画を上回るペースで減量が進んでいる。これまでの施策の効果を検証し、早期の移行に努めたい。

三 新東名・246バイパスの最大活用について

問 新東名高速道路の開通が目前に迫る中、戸川土地地区整理事業における組合設立までのロードマップはどのようなものか

答 準備組合では、事業計画案の確定、仮同意の収集などを順次進め、令和4年度末に組合が設立される予定である。事業の実現は、産業利用促進ゾーンへの企業誘致の根幹となるものであり、本市としても不転の覚悟で取り組む。要望 この計画は市民からの要望によって取り組んできた事業で、経済効果は明らかである。未来を生きる世代のために進めてほしい。



森林観光都市としてのイメージアップを

四 空き家を活用した移住促進について

問 移住政策と一体的に取り組む必要があると訴えてきたが、今後の取り組みはどのようなものか

答 空き家を活用した移住お試し住宅を設置し、その効果を検証しながら、移住・定住促進に向けた取り組みを検討していく。

五 中学校給食の完全実施について

問 中学校給食の開始まであと10カ月となったが、学校給食における地産地消の推進はどのようなものか

答 地産地消の使用割合50%を目標に、できるだけ多くの特産物などを献立に取り入れることで、将来にわたる地産地消を推進したい。

六 健全で着実な財政運営について

問 コロナ禍における財源不足を踏まえた財政見直しはどのようなものか

答 令和3年度の財源不足は約20億円と見込んでいる。将来世代に過度な負担を残さないため、行財

七 地域医療の充実・強化について

問 秦野赤十字病院での分娩業務再開と小児科の充実が不可欠と考

答 同病院は、地域医療の役割を果たすため、機能の充実に取り組みしている。このような良い情報を広く発信し、病院としての強みを

八 地域医療の充実・強化について

問 秦野赤十字病院での分娩業務再開と小児科の充実が不可欠と考

を市民に伝えることも支援になるかと考えるが、どうか

答 小児科と産婦人科は周産期医療の両輪であるとの認識のもと、小児科充実についても秦野赤十字病院と意見交換をしてきた。令和3年度は小児科医師2人が増員され、小児科入院診療の再開に見通しがついた。こうした診療科の充実などを情報提供することは、市民サービスの向上とともに同病院への支援につながるかと考えている。

九 地域医療の充実・強化について

問 神奈川病院を含め、市民や近隣市町村に対して、より一層の周知に努めてほしい。

答 S D G s の理念を踏まえ、誰もが輝くふるさとづくりを進めるため、全身全霊で感染症収束に向けて取り組む。また、現場主義で市民の声に耳を傾け、メッセージの発信に努める。

一〇 地域医療の充実・強化について

問 2050年までにゼロカーボンシティを目指す方針が打ち出された。事業者や諸団体、市民と気候変動への危機感を共有するため、気候非常事態宣言を表明し取り組むべきかと考えるが、どうか

答 地球温暖化対策として、気候非常事態宣言の理念を含めた(仮称)地球温暖化対策実行計画を策定し、オール秦野で取り組む。

一一 認知症にやさしいまちについて

問 認知症を患う人の尊厳が守られることが重要であり、当事者の立場に立つユマニチュードやタクティールといった介護技法の研修を取り入れてほしい。

答 今後、共生と予防の両輪で施策を推進したい。研修については、介護技法に詳しい専門家に相談し、検討したい。

一二 地域共生社会の構築について

問 多様性の時代において、互いに補い合う地域連携が大切である。農作業の担い手を求める農業と、自立支援としての福祉事業をマッチングさせる組織への支援が必要だが、どのようなものか

答 県とともに農福連携マッチング等支援事業に取り組んでおり、今後、課題解決に向けて本市の特性を生かした農福連携を推進する。ほか、ポストコロナの5つの重点施策について、未来に備える事業について、未来に希望をつくる事業などについて質問した。

一三 市長の政治姿勢について

問 令和3年度から秦野市新総合計画2030プランが始まる。超少子高齢・人口減少社会となり、コロナ禍で未来が不透明なこの難局を乗り越えていく上で、市長の「率先垂範」の精神はどうか

答 令和3年度から秦野市新総合計画2030プランが始まる。超少子高齢・人口減少社会となり、コロナ禍で未来が不透明なこの難局を乗り越えていく上で、市長の「率先垂範」の精神はどうか

一四 新総合計画の着実な推進を

問 令和3年度から秦野市新総合計画2030プランが始まる。超少子高齢・人口減少社会となり、コロナ禍で未来が不透明なこの難局を乗り越えていく上で、市長の「率先垂範」の精神はどうか

答 今後、共生と予防の両輪で施策を推進したい。研修については、介護技法に詳しい専門家に相談し、検討したい。

一五 地域共生社会の構築について

問 多様性の時代において、互いに補い合う地域連携が大切である。農作業の担い手を求める農業と、自立支援としての福祉事業をマッチングさせる組織への支援が必要だが、どのようなものか

答 県とともに農福連携マッチング等支援事業に取り組んでおり、今後、課題解決に向けて本市の特性を生かした農福連携を推進する。ほか、ポストコロナの5つの重点施策について、未来に備える事業について、未来に希望をつくる事業などについて質問した。

一六 市長の政治姿勢について

議会動向
2月 16日(火) 代表者会議・議員連絡会
19日(金) 議案送付委員会
22日(月) 議案送付委員会
26日(金) 議案送付委員会
3月 3日(水) 本会議(代表質問)
4日(木) 本会議(代表質問)
5日(金) 本会議(代表質問)
8日(月) 本会議(代表質問)
9日(火) 予算決算常任委員会
10日(水) 予算決算常任委員会
11日(木) 予算決算常任委員会
15日(月) 予算決算常任委員会
16日(火) 予算決算常任委員会
18日(木) 本会議(一般質問)
19日(金) 本会議(一般質問)
26日(金) 予算決算常任委員会
29日(月) 予算決算常任委員会
4月 13日(火) 議案送付委員会
16日(金) 議案送付委員会
5月 7日(金) 議案送付委員会
14日(金) 議案送付委員会

障害などを抱える生活困窮者と農業者をつなぐ支援を

用語解説 ※ユマニチュード…「人間らしくある」ことを意味するフランス語の造語。「大切に思っています」ということを相手理解できるように伝える技術と、その技術を使うときに理解しておくべき考え方で構成されている ※タクティール…ラテン語で「触れる」という意味があり、手を使って相手の背中や手足をやわらかく包み込むように触れるケアの技法